

季刊ブックレビュー

みどりの窓

特集 旅

なのびい



2019年4月 Vol. 66



◆ とびっく ◆

Read me ! 「特集 旅」

新着図書

コラム 「本で旅する？ホントに旅する？」

発行：田原市中央図書館
(TEL0531-23-4946)

本で旅する？ホントに旅する？



みんなは記憶や記録に残したい景色を見たことがある？

雨上がりの虹、雄大な山並み、きらめく夜景、自分の目で
その場の空気を感じながら見る本物は、強く印象に残る。

でも、残念なことにそういう景色ってなかなか出会えない。

出会えたら超 Lucky !

その点で、絶景をあつめた写真集はおすすめ。

だれもが、世界中の絶景を見ることが出来るのだから。

きっと、プロがねばりにねばって撮影した奇跡の瞬間だ。

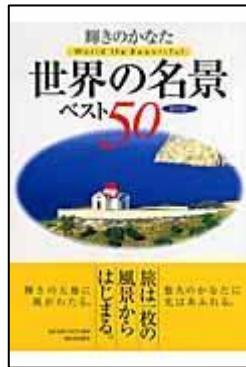
オリガミつきのうつくしさ。 ……とりあえず

いつかの旅の準備のために、ウツクシキ絶景本はいかが？

『一生に一度は見ておきたいニッポンの絶景』権出版社 2014年 291.09/イ 一般

『輝きのかなた世界の名景ベスト50』河出書房新社 2008年 290.87/カ 一般

『撮り・旅！ 地球を撮り歩く旅人たち』ダイヤモンド社 2014年 290.9/ト 一般



… 特集 旅 …

春はあたたかくて過ごしやすい季節ですね。

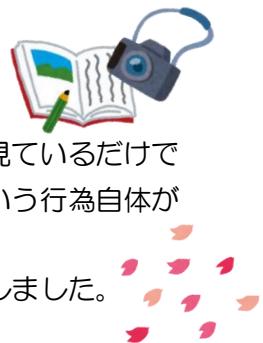
天気もよいと、どこかへ出かけたくなります。

お休みがあれば遠くへ行くのもありますよね。

そんな時間はない！という人でも、ガイドブックを見ているだけで旅行気分を味わえますし、そもそも「本を読む」という行為自体が本の世界への旅といえるのではないか！！！

…という司書Nの独断で、今回のテーマを「旅」にしました。

それでは皆さん、よい“旅”を。 ('ω')ノ



迷い人たちが、たどり着く場所

「ラストリゾート」

ロベルト・インノチェンティ // 絵 BL出版 2009年 E/イ ティーンズ'



想像力をなくしてしまった絵描きがたどりついた先は、ドコダカダレニモワカラナイトコロにある海辺のホテル「ラストリゾート」。不思議なホテルに泊まっているのは、どこかで出会ったような変わったお客様ばかりで…。

「人魚姫」や「宝島」など名作の登場人物が出てきます。どれだけ分かるかな？

はやぶさ、きみ、そんなに頑張るの…？

「小惑星探査機『はやぶさ』宇宙の旅」

佐藤真澄 // 著 汐文社 2010年 538/サ ティーンズ'



レビューを書く本を選んでいるとき、「はやぶさ2」の小惑星リュウグウ探査が話題になっていました。私は初代「はやぶさ」のこともよく知らなかつたので、この本を読んでみたのです。1時間で読める短さで、はやぶさの計画から旅立ち・帰還までがザックリとわかります。そして感動する！地上からの指令だけでなく自ら判断し行動する「はやぶさ」が、読んでいるうちにモノとは思えなくなってきて、最後は泣きました。

『ただいま、地球のきょううだい！』

「春の旅人」

村山早紀 // 著 立東舎 2018年 913.6/ムラ ティーンズ



ある夜、とりこわしが決まった遊園地を訪れたぼくは、ひとりのおじいさんと出会う。おじいさんは桜の木の下で空を見上げて待っていた。51年に一度遠い宇宙から地球へ帰ってくるという亀を…。

地球で生まれた亀は、宇宙へと旅立ち、また地球へと卵を産みに帰ってくるのだそう。

幻想的なイラストとともにをお楽しみください。

世界一（？）ゆる～い旅エッセイ登場！

「またたび」

さくらももこ // 絵と文 新潮社 2003年 290.9/サ ティーンズ



昨年急逝された、『ちびまる子ちゃん』でおなじみのさくらももさんが編集長を務めた雑誌『富士山』からより抜いた、旅エッセイです。かざらない文体で、とても読みやすい。

登場人物も個性的な人が多く、その中でも、とある国で財布をすられた石井さんがおもしろい。あの有名な父ヒロシも出てきますよ(*^。^*)

用法・用量を守って正しくお使いください。

「エジプトのききめ。」

ムラマツエリコ、なかがわみどり // 著 JTB 2003年 294.2/ム ティーンズ



海外に行ったことがないので、これを読んだ時は衝撃でした。日本の生活に慣れていると、海外の旅は不便なことばかりのように感じるけれど、それらもひっくるめて楽しんでいる感じが伝わってきます。写真やイラストが満載なので、どのページから読んでも楽しめます。思わずクスッと笑いながら読んでしまいました。

世界は広いんだなあ…。

「いつか行ってみたい世界一の絶景を見る」

アフロ//編 新人物往来社 2011年 290.87/セ ティーンズ



テレビなどの媒体で使われる写真素材の提供元としてもおなじみのアフロが出している本です。とてもきれいで迫力のある写真がそろっていますよ。これ一冊で、世界一周した気分になれるのでおすすめです。

私が一番驚いたのは、フランスにあるミヨー橋という世界最高の橋です。一番高い主塔(吊り橋のケーブルを支える塔)の高さが343mだそうです。東京タワーより高いなんて…(((:(。△。)))アツアツ

タイトルはチカラがぬけるけど、まじめなんですよ

「毛の力 ロシア・ファーロードをゆく」

山口ミルコ//著 小学館 2014年 292.91/ヤ 一般

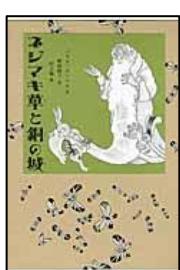


ガン闘病から生還した元編集者の著者は、闘病をきっかけに大量消費する現代に疑問を持ち、人間と動物との関係について考えるようになっていた。また、闘病で一時「毛」を失ったこと、自身の名（ミールニ世界平和）のルーツがロシア語だったことから、その上質な毛皮が「やわらかい金」と呼ばれ、かつてロシアで乱獲されたクロテンの歴史と現在を追うべく、毛皮の道「ファーロード」取材の旅にでる。

王の命をつなぐもの、それは物語だった…

「ネジマキ草と銅の城」

パウル・ビーヘル//作 野坂悦子//訳 福音館書店 2012年 949/ビ 児童



銅の城には、みごとなあごひげをたくわえたマンソレイン王がノウサギと暮らしていた。王は千年もの間、国をおさめていたが、命がつきようとしていた。城によばれたまじない師は、王の命を救うため薬となる「ネジマキ草」をさがす危険な旅にでる。まじない師の帰りを待つ間、城にはさまざまな生きものが訪ねてきて、王の寿命が尽きぬよう、物語を語って聞かせる。

1話ずつが短いから、意外と読みやすいです

「ザ・ディスプレイスト」

ヴィエト・タン・ウェン // 編 ポプラ社 2019年 936/サテ' ティーンズ'



どんなに楽しい旅でも、帰る家があるからこそ楽しめるもの。でもその帰る家どころか国さえも無くなってしまった人が世界にはたくさんいることを知っていますか？ニュースでも話題になっている難民（ディスプレイスト）という経験を持つ18人の作家たちの過去を描いた1冊。テレビからは分らない彼らのそれぞれの生き立ちが胸に響きます。

定番の感動ポイントは置いといて・・・

「星の王子さま」

サン=テグジュペリ // 著 新潮社 2006年 953.7/サン ティーンズ'



あえて「旅モノ」という視点で読み返してみました。まず主人公の飛行士も王子さまも旅人なんですね。王子さまはいろんな星を旅して、飛行士は愛機が壊れて砂漠に不時着したところ。どちらも長い旅をしてきて、砂漠の真ん中で身動きが取れなくなっている。「実は相当な極限状態なのだ」と思って読むと二人で過ごした時間の尊さが増し増し…砂漠に行きたくなりました。

☆「旅」なDVD・CD

DVD「にっぽん百名山 西日本の山 2」 2013年 291.09/ニ 中央

山登りをしている気分が味わえます。このシリーズ、いくつか所蔵しているのですが、DVDの棚ではなく本の棚にあります。その中で、司書N推しの四国・剣山が収録されているこちらをご紹介します。

CD「ライフ」小沢健二 1994年 CD 211/オ 中央

「ぼくらが旅に出る理由」は名曲ですよね。司書Nはフジファブリックがカバーしたバージョンも好きです。

★★DVD・CDは人気の資料です。貸出中の場合は、予約をしてね！

□他にもこんな本あります♪□

○『短編少女』

集英社文庫編集部 // 編 集英社 2017年 913.68/タ テーンズ

○『なくなりそうな世界のことば』

吉岡乾 // 著 創元社 2017年 801.4/ヨ テーンズ

○『中学生のためのショート・ストーリーズ 2』

パックンマックン // 選 学習研究社 2007年 908/チ テーンズ

○『世界の国旗』

メトロポリタンプレス // 編著 メトロポリタンプレス 2016年 288.9/メ テーンズ

○『クイス*迷宮美術館』

NHK『迷宮美術館』制作チーム // 著 河出書房新社 2009年 720/エ テーンズ

○『旅の絵本』

安野光雅 // 作 福音館書店 1982年 E/ア/1 テーンズ

○『誰も知らない世界のことわざ』

エラ・フランシス・サンダース // 著・イラスト 創元社 2016年 388.8/サ テーンズ

○『ぼくを探しに』

シェル シルヴァスタイン // 著 講談社 1977年 E/シ テーンズ

○『住んでみたい宇宙の話』

竹内薰 // 著 キノブックス 2016年 538/タ テーンズ

○『ガオ村ぐるぐる。』

なかがわみどり・ムラマツエリコ // 作・絵 角川書店 2011年 292/ナ テーンズ

予告：次号の特集は「お金を知る」です。

お楽しみに♪

☆新着図書・この本読んで！☆

第24回電撃小説大賞 受賞作

「この空の上で、いつまでも君を待っている」

こがらし輪音 // 著 KADOKAWA 2018年 913.6/コガ ティーンズ



「私以外が全員バカ」一友達と付かず離れずの関係を保ちながら、冷めた目で見ている美鈴。学校近くの雑木林でごみの山からロケットを作りしている、同じクラスの男子生徒東屋に出会う。「昔出会った宇宙人にもう一度会いたい」そんなバカバカしい目標にあきれる美鈴だったが、ロケット作りに必死になる東屋にさらに隠された事情とは？

全部ちゃんと読むなんてムリだもの！

「世界の名著見るだけノート」

福田和也 // 監修 宝島社 2019年 028/セ ティーンズ



好みじゃなくても、面白くなくても読んでおいたほうが良い本ってありますよね。教養ってやつ。でも全部読むのはムリじゃない？ほかに読みたい本あるし。

この本は日本を含む世界の名著の著者・内容・当時の社会との関わりなどを要約と図でさっくり説明しています。特にストーリーが道順のようなイラストで表してあるのが分かりやすい。これを読んで気になるのがあったら、実際に読んでみるのもいいですね。

わたしは、ロボットだった。

「わたしが少女型ロボットだったころ」

石川宏千花 // 著 偕成社 2018年 913/イ ティーンズ



中学卒業を控えた多鶴は、ある時ふと思い出した。自分が人間ではなくてロボットだったということを…。

自分の事をロボットだと思い込み、食事をすることができなくなってしまった多鶴。衰弱してゆく彼女を温かく見守り寄りそう同級生のまるちゃん。それぞれの家庭に問題を抱える「それどころじゃない」彼らの物語。

